

DENTAL DIAMOND

2015年11月1日発行(毎月1回1日発行)
第40巻第15号 通巻593号
ISSN 0386-2305
昭和51年6月2日 第3種郵便物認可

11

BEST BUY

YOU can blow
it's

KLEEF

LONDON CHARGE

LONDON CHARGE

LONDON CHARGE

LONDON CHARGE

LONDON CHARGE

LONDON CHARGE

LONDON CHARGE

LONDON CHARGE

LONDON CHARGE

LONDON CHARGE

LONDON CHARGE

LONDON CHARGE

LONDON CHARGE

実践歯学ライブラリー

歯周治療がうまくいかないのはなぜか?

▶佐野哲也

rinsho.com

非抜歯矯正治療の達成

第一～二期治療にかけての「拡大」の解釈 ▶吉田章太

医療安全対策はじめてガイド

医療安全のために必要な器具・機材

これだけは整備しておこう ▶中島 丘 岩崎妙子

経営座談会 歯科医院 成長・発展のための次の一手

医院承継どうすればうまくいくの? ①

▶林 揚春 佐々木秀人 石田智代 岩田義明

Dd「ネグレクト防止」セミナー

子どもの虐待の早期発見のために 歯科ができること

▶香西克之 渡部 茂 長尾正崇 山崎健次

Dd



女性歯科医師
Presents

これが私の生きる道

大久保恵子 Keiko OKUBO

京都府・医療法人すみれ おおくぼ歯科クリニック

想いがあって、結果（現実）がある！

「思考は現実になる」って聞いたことありますか？ まずは、私の人生のキーワードである、「思考は現実化する」「想いは実現する」というちょっと怪しい考え方についてお話しします。技術を学ぶことも大切ですが、「考え方」「学び方」もとても大切だと思います。自分の歯科医師としての「想い」を実現させるには、どうすればよいのでしょうか？

強く願い、イメージし、忘れる

栃木県の、医療とは無関係の家に育った私ですが、小学生のときの将来の夢は「歯科医師になる」でした。卒業文集にそう記した私は、中学生になると毎日ベッドの中で自分のクリニックのイメージを膨らませていました。そんな私が中学、高校の修学旅行で出会ったのが「京都」です。古都の町はどこを歩いても絵になり、「ここに住もう！」と決めました。「京都で歯科医をしている自分」。これが私の未来像になりました。

そして、私の「想い」を実現させるためか、不思議な偶然が重なり、気づけば京都で歯科医院を開業していたのです。「目標を立てて進めば、そうなるのは当たり前」という声も聞こえてきそうですが、小中学生の初志を貫徹できるほど、私は強くありません。両親や友人とも遠く離れ、ここ京都に住んでいることがいまでも不思議です。

「こうなったらいいな」という想いが湧き上がったとき、私はまず「強く願いイメージして」みて、「そうなったら楽しいな」「ワクワクするな」と感じると、なぜか物事や人との出会いが起こり、「想いが実現」することが多い気がします。

メンターとの出会い

「出会いは必然」。年を重ねるごとに、そう感じるが増えています。30歳で開業し、毎日臨床での悩みが増えていきました。歯科雑誌での華やかな症例を見るにつけ、どうしたらこのような治療ができるのか、自分の臨床との差にどうしてよいかわからず、片っ端からセミナーを受講しては悩んでいました。どこに向かって歯科医師として歩んでいけばいいのか、何が正しい歯科医療なのか、30代前半は迷いのなかにいました。





▲**審美歯科協会 in 韓国**



▲スタッフとスウェーデン・マルメ大学へ予防歯科の研修



▲社員旅行にはスタッフの子どもたちも参加

そんなとき、私の1番のメンターで、WDC (Women's Dentists Club) 会長の**林 美穂先生 (福岡県開業)** と出会いました。2004 年のある日 (開業3年目)、休み明けに出勤すると、2枚のFAXが来ていました。1枚目はあるスタディークラブからのロサンゼルスでの研修のお誘いでした。そして2枚目のFAXは、たった1日でその定員がすべて埋まったというお知らせでした。私が休んでいた1日の間に、研修が締め切られたのです。**事前告知**があったわけでもないその研修に、私はなぜか「**行きたい!!**」「**行かなければ!!**」と感じたのです。そして無謀にも**事務局に電話**し、「どうしても行きたい」と想いを伝えました。「**叩けよ、さらば開かれん**」。その言葉どおり**扉が開**かれました。たくさんの方々に迷惑をかけながら出発した約1週間の研修。私の生涯の師匠である林先生や元 永三先生 (福岡県開業) との出会いはそこでもたらされたのです。

研修先のロサンゼルスで林先生が発表したすばらしいプレゼンがいつも頭に浮かび、それが私の**目標**になりました。私と林先生は3歳ほどしか**違い**ませんが、臨床内容は天と地ほどの差があり、アンタル1枚からして、クオリティーはもちろん、こだわりもブ口意識も何もかもが**雲泥**の差でした。**雷**に打たれたような**衝撃**とともに、林先生を**賞**同攻めにしたことを、いまでも覚えています。何よりも、研修中の1週間3食をともにし、林先生たちの**言葉** (考え方) のシャワーを浴び**続**けた経験は、**私の生涯の宝物**です。

さらに同年、私のもう1人のメンター、**熊谷 崇先生**にも出会いました。「**求めよ、さらば与えられん**」。34歳の私は、そうとう道に迷っていたようです。振り返ると、この2004年、私の歯科医人生で**最大の影響**を受けたメンター2人が私の前に舞い降りました。この年、私は2度も**雷**に打たれたのです。当時、行っていた「未来型歯科医院セミナー」で、熊谷先生は「**歯を守る**」ための**歯科医療**について、**熱く語**っていました。学校検診の採針無使用、予防の啓蒙、フッ化物使用により、全国でもトップクラスに多かった山形県の子どものdftが日本で**最も低**くなったこと、**歯科医の仕事**はほとんどが再治療であること、治療すればするほど歯が失われることなど、すべてが**衝撃**的でした。そして思い出したのです。子どものころから歯の治療を繰り返し受けていた自分が、**歯科医**になろうと思った理由。「**歯を守る歯科医になりたい!**」。改めて、心からそう思いました。すると、「**なりたい歯科医像**」が、私のなかで**具体化**していきました。

「子どもたちの歯を守る歯科医になりたい」

「一度治療したら再治療にならないようなきちんとした治療ができる歯科医になりたい」

「正確な診断によるリスク判断ができる歯科医になりたい」

「最新の医療により、患者さんのQOLを高めたい」